

COP10における市民の取り組み

- IUCN日本委員会

- 愛知ターゲット

- COP10-1年前シンポジウム、
ポスト2010年ターゲットを議
論

- 国連生物多様性の10年

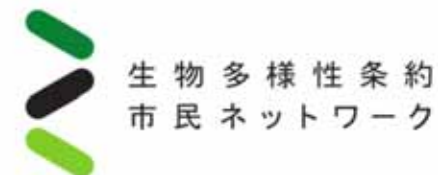
- 国連生物多様性の10年の
提案

- おりがみプロジェクト

- COP10のシンボルのおりが
み、2020年へのメッセージ



COP10における市民の取り組み



- CBD市民ネットワーク

- プラットフォーム

- 113の市民団体、93の個人
 - 政府、実行委員会と交渉
NGOルーム運営、NGO戦略会議

- ネットワーク

- CBD事務局、国際NGOとの連絡
 - 生物多様性対話集会
 - 生物多様性交流フェア、グローバル対話フォーラム



COP10における市民の取り組み

- CBD市民ネットワーク

- アドボカシー

- ポジションペーパー発表
- 意欲的な愛知ターゲットの採択を求めるCSO宣言
- COP10 本会議におけるNGOステートメント
- 国連生物多様性の10年、水田の生物多様性決議、CEPA決議 など



生物多様性条約
市民ネットワーク



愛知ターゲット（新戦略計画）

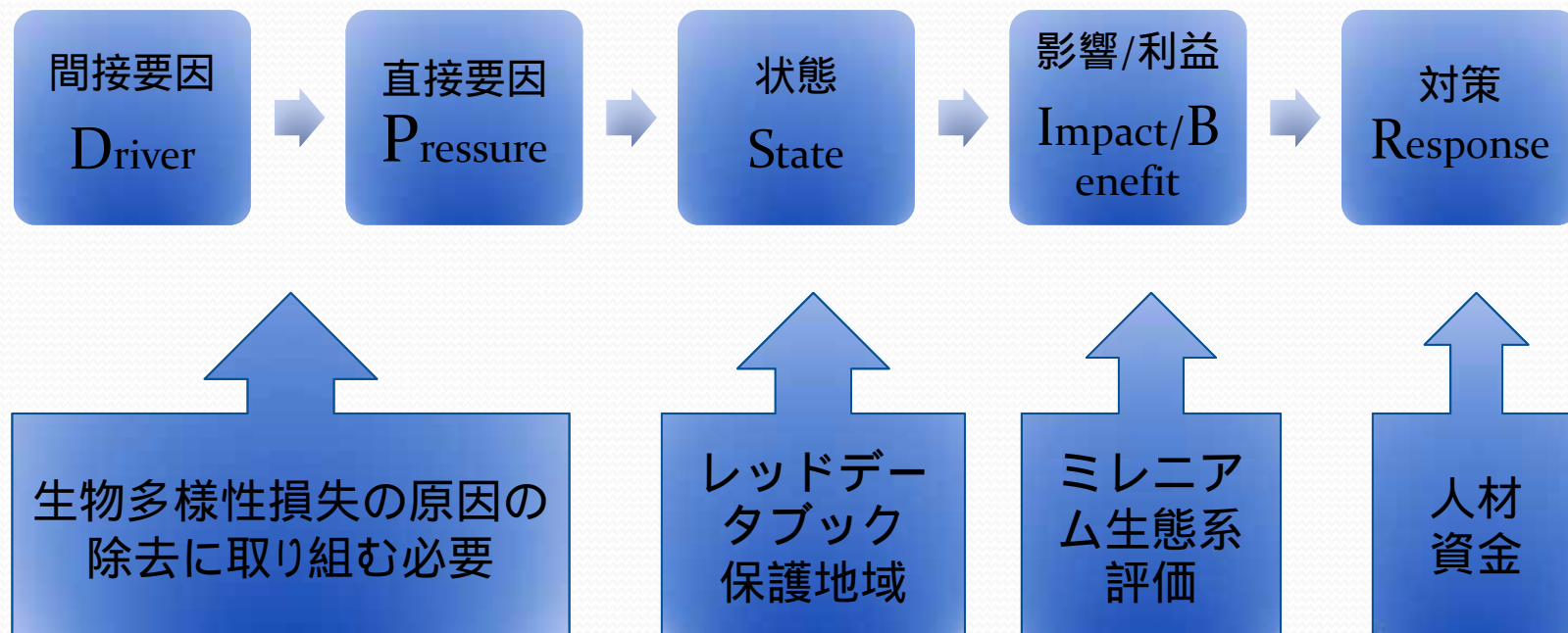
● 2050年ビジョン

- 生物多様性が評価され、保全され、復元され、賢明に利用され、健全な地球と利益を全ての人々がわかちあう「**自然と共生した社会**」の実現

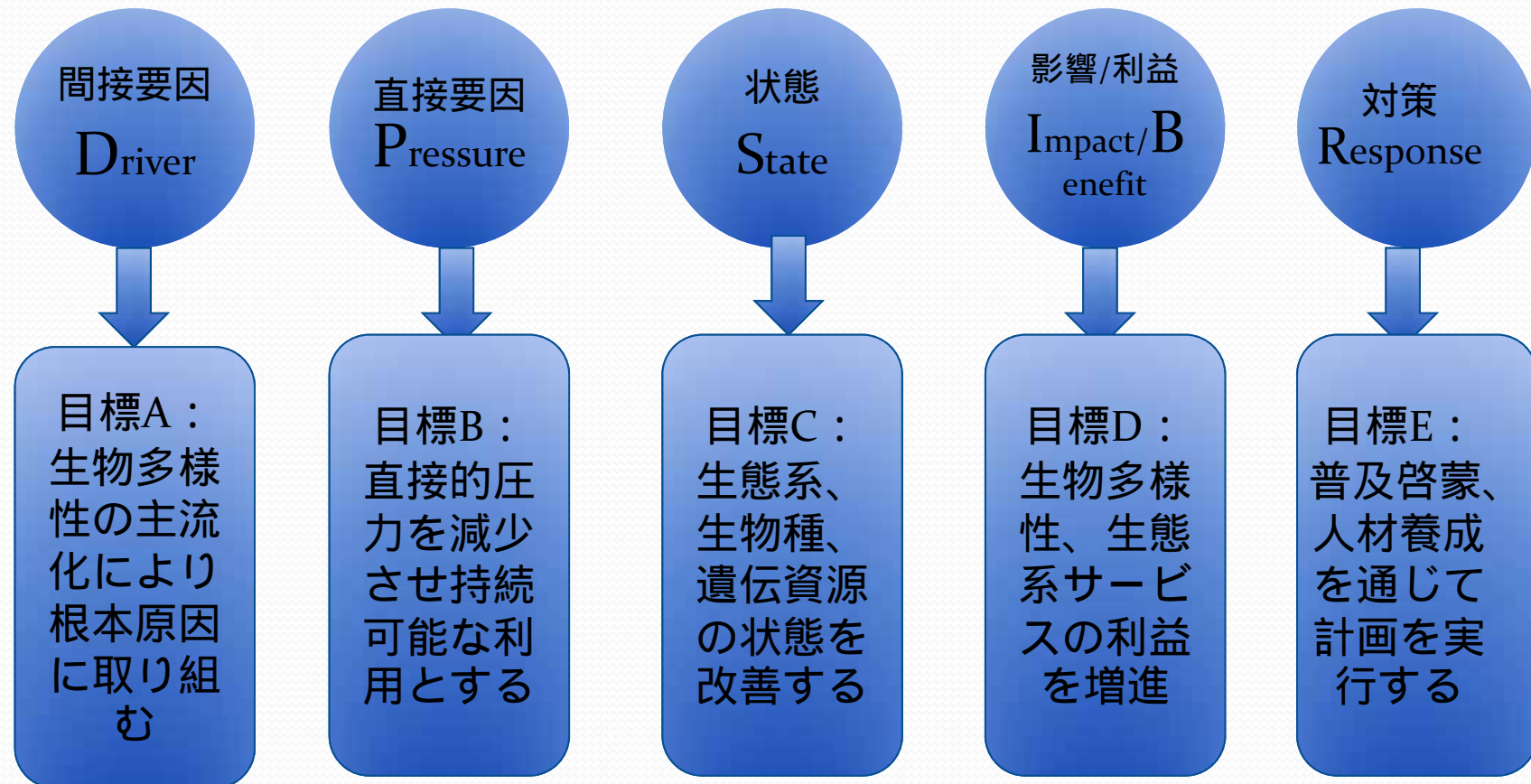
● 2020年ミッション

- **生物多様性の損失を止めるための効果的かつ緊急な行動**を2020年までにとることにより、生態系の回復力と必要不可欠な生態系サービスを持続し、それによって地球の生物多様性を保全し、人類の福祉と貧困撲滅に貢献する

生物多様性損失の要因と対策 (DPSIRモデル)



生物多様性条約新戦略目標 (愛知ターゲット)



愛知ターゲット（戦略目標A）

戦略 目標A

間接 要因

- 目標1 . 全ての人々が生物多様性の価値を認識する
- 目標2 . 政府の計画指標に生物多様性の価値を組み込む
- 目標3 . 生物多様性に有害な補助金を廃止する
- 目標4 . 全ての関係者が行動し、計画を実行する

愛知ターゲット（戦略目標B）

戦略目標B 直接要因

- 目標5．森林を含む生息地の損失速度を減らす
- 目標6．過剰漁獲をやめ、持続可能な漁業とする
- 目標7．農業・林業が持続可能に管理される
- 目標8．環境汚染を有害でない水準におさえる
- 目標9．外来種が制御され、根絶される
- 目標10．気候変動の影響を最小化する

愛知ターゲット（戦略目標C）

戦略 目標C 状態

- 目標₁₁ . 保護地域を通じて生物多様性保全上重要な地域が保全される（陸域陸水の17%、海域沿岸の10%）、効果的な管理、周辺のランドスケープとの統合
- 目標₁₂ . 絶滅危惧種の絶滅が防止される
- 目標₁₃ . 遺伝的多様性の損失が止まる

愛知ターゲット（戦略目標D）

戦略目 標D

影響/

利益

- 目標14 . 生態系が保全され、自然の恵みが享受される
- 目標15 . 生態系が、気候変動の緩和と適応に貢献する、**劣化した生態系の15%を回復**
- 目標16 . 遺伝資源へのアクセスが促進され、利益が公平に配分される

長良川河口域の自然再生

- 長良川河口堰による河口域への影響

- 上流域への影響

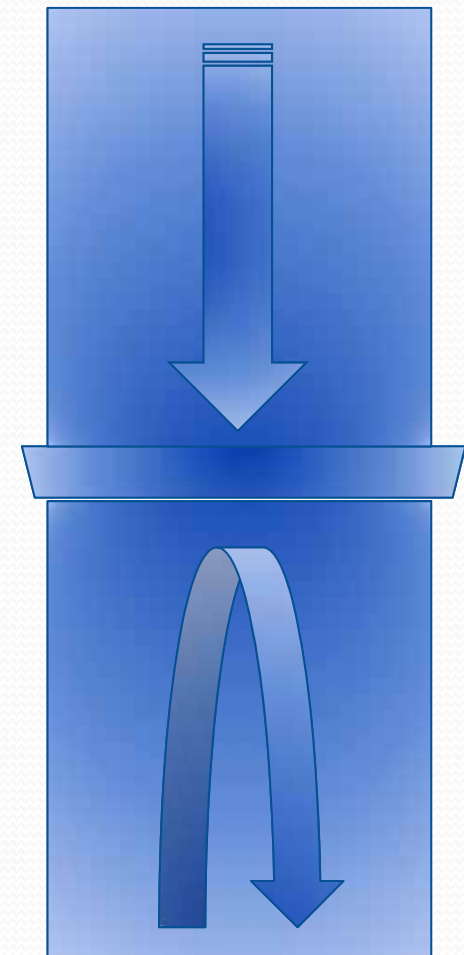
- アシ原の減少、鳥類の減少
- 湖沼化、プランクトンの発生
- 底質の悪化、メタンの発生
- 底生生物・鳥類の減少

- 下流域への影響

- 塩水くさびの固定、鉛直循環流の発生
- 底質の悪化、底生生物の減少
- 鳥類の減少

上下流の分断

- サツキマス、アユの減少



長良川河口域の自然再生

- 長良川河口堰運用による河口域の再生

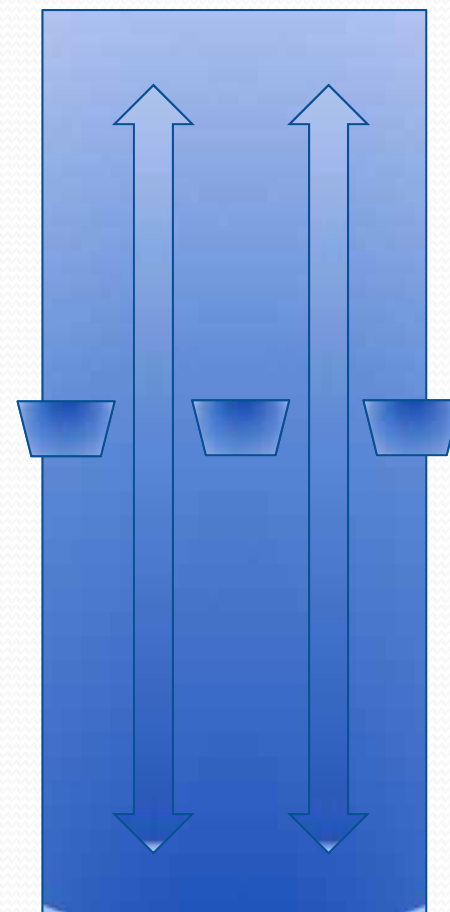
- 河口域の再生(短期)

- 流れの回復
- 潮流の回復
- 魚類の遡上の回復

- 河口域の再生(長期)

- 底質の回復
- 底生生物の回復
- 抽水植物の回復
- 鳥類の回復

注意すべきこと
塩水を入れたまま
堰を閉じ、塩分成層
を作らないこと



愛知ターゲット（戦略目標E）

戦略 目標E 対策

- 目標17.効果的で参加型の国家戦略を策定する
- 目標18.伝統的知識が尊重される
- 目標19.関連する知識・科学技術が改善される
- 目標20.人的・資金的能力が向上する



国連生物多様性の10年

